

令和2年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和3年5月25日

学校法人 宮地学園

幼稚園型認定こども園 杉の子第2幼稚園

当園ではこの度、学校評価として、教職員の自己評価と学校関係者評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自分自身や園全体を見つめ直すよい機会となりました。また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

1. 本園の教育目標

「笑顔がいっぱいの杉の子第2幼稚園」

- ①心身ともに調和のとれた発育・発達と健全な人間性の基盤を築くこと
 - ②精神的にも肉体的にも、つよく・かしこく・たくましく・感性豊かな思いやりのある子の育成
- <杉の子第2幼稚園の教育>
「教育とは、しっかりした理念をもって、子どもを伸ばすことである」～しかも、笑顔つきで～

2. 本年度重点目標・計画

<本年度の重点>

- ・教職員の資質・指導力の向上⇒個々の力と組織力（チーム園の結集）
 - ・人間的な魅力（あたたかさ、ポジティブシンキング）
 - ・表現力、特に聞く力の育成
 - ・個から集団へ（個を大切にしながら、集団としての力を育む）
 - ・保育から教育へ（幼稚園らしさの追求）
 - ・保育部・幼稚園部・預かりの連携
 - ・危機管理（安全対策）
 - ・人材の確保・育成
 - ・新型コロナ対策
- ↓ そのために
- 目標と指導と評価の一体化を図る
 - つけたい力、目標等を明確にし、子どものやる気、主体性を生かす展開、活動を行う
 - 一生懸命にやるすばらしさを体感させる
 - 子どもの話（声）に耳を傾ける
 - 年長児のモデル化、異学年の交流を図る
 - 行事や体験活動、あそびを通して生きる力を育む
 - あいさつ、「ありがとう」「ごめんね」が気持ちよく言える子どもを育成する
 - 情報の発信を行う
 - 子どもの笑顔があふれる環境づくりを行う
 - コロナ禍の教育課程を考え、子どもを中心とした保育・教育を実践する
- ※人には優しく、自分に厳しく、保育・教育のプロとして愛をもって、子どもを伸ばしましょう！

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程を見直し改善を図る	A	<ul style="list-style-type: none"> ・宮地学園の教育方針である「笑顔いっぱいの幼稚園」の「笑顔」をテーマに取り組むことができた。子どもの笑顔を第一に考えると、自然と楽しい活動につながり、コロナ禍の制限がある活動のなかでも今後に生かしていける取組を考えることができた。 ・「自分の力で仲良く、元気に、もうひとがんばりする子ども」という理念を根底にもち、子どもの日々の姿をしっかりとみて、個々の成長に合わせた対応をすることができた。 ・「つよく・かしこく・たくましく」を念頭に、コロナ禍においても職員が一丸となり、子どもたちに何ができるかを話し合い、できることを最大限に引き出すことができた。
2	職員の資質向上(研修・情報共有等)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の活動や行事の取組の中で、全体及び各クラスの目標やねらい、つきたい力を明確にして、手立てを打つことができた。子どもたちが、“やってみよう”“楽しい”と思うことができるような、子どもたちの笑顔をたくさん見ることができるよう取組を職員それぞれが考えて実行することができた。 ・夕涼み会は中止となったが、年長児をリーダーに夏祭りを行うことができた。年長児が主体となって活動を進めたことで、異年齢間の自然な交流ができ、園全体が一体となって楽しい活動ができた。 ・行事ごとの反省会や公開保育など、子どもたちの姿を多面的にとらえて互いに勉強できる機会を大切にし、職員間で学びや情報を共有することができた。
3	特別支援教育のための園内支援体制を整備する(家庭との協力・連携も含む)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・高知市教育研究所とも連携を図り、就学に向けて気になることや保育上の留意点、伸ばしたいところなどを保護者と相互理解し、就学先の小学校にも個別指導計画をもとに話し合っている。 ・クラスの中だけでなく、園全体で共通理解できるようにし、預かり保育の中でも、複数の目で成長を見守ることができている。 ・個人面談はもちろん、日常的にも保護者とのコミュニケーションをとることを大切にしている。気になる子どもについては、保護者とともにもその子どものために一番良い手立てを考え、必要であれば専門機関との連携も図った。
4	安全管理体制の強化	B	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面を常に意識し、園外に出るときやプール活動、行事等、その都度でいねいに事前の話し合いを重ねることができた。活動によって子どもたちの行動を予想し、マットを用いたり広い場所を使ったりして危険を防ぐようにした。 ・アレルギー児への給食提供では、席を離したり保育者がついたりするとともに、日々二重のチェックを行い、安全に心がけた。 ・コロナ対策も、本部と連携し万全に行うことができた。

評価の基準 (A : 十分達成されている B : 達成されている C : 取組まれているが、成果が十分でない D : 取り組みが不十分である)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	4つの評価項目について重点的に取り組み、一人ひとりの子どもを大切に質の高い教育・保育を実践することができた。また、更なる質の向上に向けた課題も明確になった。

評価の基準 (A : 十分達成されている B : 達成されている C : 取組まれているが、成果が十分でない D : 取り組みが不十分である)

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
1 教育内容	<p>子どもの発達段階に応じた指導計画を立てるために、目の前の子どもをよく観察することを大切にし、活動の全体像を見ながら、表面的な姿にとらわれない内面の思い、育ちを見ていくことで、今必要な援助、配慮が見え、計画案、指導案に生かされていくと思う。行事の取組を早い段階で計画的に余裕をもって進めていきたい。保育部と幼稚園部、預かりの連携の強化を図りたい。</p> <p>職員一人ひとりが、意見や実際取り組んだことなどを発言し、意見交換を行い、次へのステップにつなげていきたい。子どもたちがあそびを通して学ぶなかで、何を楽しんでいるか、何を体験しているかを読み取り、あそびこめる環境づくりをしていきたい。自分のやりたいこと、やってみようことを十分にできる時間と環境づくりができるよう努めたい。子どものために、保育者が楽しんで教育・保育ができるように、また、道具、用具等がいつでも取り出せるような環境整備を図りたい。今年度は、コロナの影響で異年齢での保育交流がなかなかとれなかったが、交流することで、子ども同士も保育者同士もプラスになるので、ぜひ行いたい。</p> <p>特別な支援の必要な子どもについては、全職員がその子どものことを理解し、特性を把握しておくことが必要である。今後も、家庭や職員間でいねいに情報を共有し合いながら、支援を必要とする子どもへの対応や進級後の引継ぎ、就学支援につながるように連携を図っていけるようにしたい。</p> <p>引き続き、アレルギー児への対応や日々の給食確認等、連携や共通理解を図っていくことが必要である。常に危機管理を意識していくために、安全・安心に対する意識改革とともに、人員の確保が重要であると感じている。地震や火災などは訓練を重ねているが、不審者に対する訓練も行っていきたい。</p>

6. 学校関係者の評価

<令和2年度後援会会長>

・各クラス毎月の目標を設定し、園便りに記載したり、行事等の目標やつきたい力等を「園長室のまど」に随時記載されているので、分かりやすく、行事等に視点をもって参加することができる。

・年長児は、「幼稚園のなかのリーダー」である。子どもたちは、年長組になったらとても張り切り、日常の保育・教育のなかでも、自然と年下の子どものお世話をしたり片付けやお手伝い等を率先してできている。また、年長児の取組であるよさこいや運動会マスト登り、鼓笛隊等、一生懸命行う姿を見ることで、年中児、年少児が模倣したり、意欲につながっていると感じる。

・「おはようございます」や「さようなら」は、自発的に言えていると思う。「おはよう」や「ありがとう」のことが園にあふれているので、子どもたちもそれを見て、あいさつができる子どもに育っていると感じる。

・食育にも積極的に取り組み、野菜の栽培、サツマイモの苗植え・収穫・焼き芋パーティーを行ったりと、「直接体験」を通して、自然に興味をもち、育てることの楽しさや大変さが分かり、食べ物のありがたさやいろんな人への感謝の心に結びついていると思う。2年度はコロナの影響で、給食で使用する野菜の皮むき等ができなかったが、今後も続けていって、「食」を考えるきっかけをつくってほしい。

・「園長室のまど」やHP内のブログを通して、ふだんの子どもの様子や行事の様子等を頻回にアップしたり、園舎内には活動の写真も多く掲示しており、子どもの園での姿や表情がよく分かる。仕事等で忙しい家庭も幼稚園で取り組んだことを確認することができる。

<あたご幼稚園園長>

・未曾有の事態にも関わらず、主軸をブレさせず、子どもをいかに伸ばすかを常に考えてこられた足跡を感じる。多くの制限があり、できることが少ない状況であったからこそ見えてきた事柄はズバリ「笑いがいっぱいの子第2幼稚園」であり続けることであったということ。それそのものが、子どもをよりよく育て、園に関係する多くの方々を幸せにする営みであると実感できたのでrはないかと感じられた。これは、まさに宮地学園の根幹であると思われる。

・わたしたちの仕事は多岐にわたり大変複雑な作業である。とても煩雑な日常だからこそ、保育のなかで方向性を見失わないようにしていく作業が必要である。貴園では、今年、学園のランドマークとなる部分を先生方全員で実感された。『今まで、当たり前にしてきたことが、本当に重要なことであった』と実感できたこと、研修等では学ぶことができないこの体験は、ほんとうに素晴らしく貴重なことであったと思う。質向上という意味では、これ以上の成果はないと感じている。この体験が、今後の保育力に繋がるはずと感じた。

・学校評価は、園がもっている力を再認識し、スタッフが自信をもって次に進んでいくための営みでありたいと考えている。それには、今自園がもっている素晴らしいものをしっかりと見つけ出し、それを更に素敵なものへと広げようとするものであると考えている。課題や改善点をえぐり出すような作業をしては、先生方のやる気を削ぐだけでなく、自分の価値を低く捉えてしまうことに繋がりがかねない危険性があると思っている。一方、貴園の営みからは、振り返りによって自分たちのしっかりとした足跡を見つけたことによって、きっと、「今年よくがんばってきた」「やってよかった」と感じながら自己評価が進んだのだろうなと思えた。こうでなければならぬ。このベクトルに気づけば、おのずと仕事が楽しくなる。今後の更なる活躍を楽しみにしている。

<評議員>

・杉の子第2幼稚園を訪問した時に感じたのは、「なんでこんなたいへんな仕事をこんなに楽しそうにできるのだろう」であった。乳幼児から年長組まで子どもたちも先生も笑顔があふれていた。幼稚園の先生は、単に子どもが好きだけでは到底務まらない高い意識と責任感を求められる仕事だと思う。

・多くの子どもたちが、向こうから挨拶をしたり、話しかけてくれた。園のしっかりした「教育」を感じた。

・年度の目標や計画を見て思うのは、園長先生はじめ先生方全員が、わたしたち民間企業以上に自分たちの職務に明確な指針をもっていることである。「子どもたちの生きる力を育む」という目的を達成する道筋をしっかりとしたマニュアルとして共有できる体制を構築し、それに向かって全員が邁進している姿勢は、自身の会社も見習いたいと感じた。

<鴨田小学校校長>

・貴園は、幼児にとっては安全安心に主体的な活動ができる環境、保護者にとっては園での活動に関心を高め、困ったことを気軽に相談できる雰囲気等の環境等、教育環境が整備されている。また、そのことをホームページ等で地域に発信し、認定こども園の目的を果たそうとされている。校種等の違いはあるものの、公立学校の本校においても参考にしたい相手意識の高い教育活動を展開されていると感じる。

・現在、貴園と本校は、引継ぎ会や情報交換会、一日入学等において、児童の個性や背景の共通理解図り、小学校教育への円滑な接続に向け、学級編成や支援の参考にさせていただいている。さらに、今回の評価報告書において、貴園が一層取り組まれようとしている、園児の表面的な姿にとらわれず、内面の思い、育ちを見て行う支援を本校も共有させていただくことで、より細やかな児童理解や適切な支援につながることを期待できる。

・園児の興味関心の把握に努め、遊びこめる環境づくりや十分な時間の確保は、園児の主体性を高めることにつながる。本校のスタートカリキュラム改善にも、児童の主体性を伸ばすことを意識していきたい。貴園と本校が、互いに接続期カリキュラムの充実を図る視点を共有する機会を工夫し、貴園で育てていただいた児童の力を本校でもさらに伸ばせるように連携していきたい。